

2019年度

富士見保育園事業計画（案）

2019年3月7日（水）

眞澄児童福祉会 富士見保育園

社会福祉法人 真澄児童福祉会 富士見保育園 2019年度事業計画

30年度は前年末より、保育士養成校、養成大学校を訪ね、当園を実習指定校にと
お願いに伺い、その甲斐あって前年の2倍の実習生を受け入れることが出来ました。
数年後に、当園への新規採用の求人に繋がるのではないかと考えております。
それに伴い職員が、実習生の育成について丁寧に伝え、保育士の職業のすばらしさ、楽し
さ、喜びを伝える事で、職員自身の意識向上へも繋がりました。

子ども達も、実習生や近隣の方々との触れ合いを多く持つことができ、ボランティア活
動の参加など、園の中だけでは培えない多くの社会性を育む事ができました。

新年度も、研修などを通し保育の質の向上・職員の資質向上を目指し、子ども達、保護
者の方々に真摯に向き合う事を大切に、安心して保育園に預けて頂けるよう努力してまい
ります。

保育理念

- ・一人一人の個性を尊重し、社会の一員として充実した人生を歩む基礎作りをする。
- ・子どもの心とからだ（生きる力）の基礎を育む
- ・子どもの最善の利益と福祉の増進

保育目標

- ・よく遊ぶ子ども
- ・仲良く遊べる子ども
- ・自分で出来る事は自分でする子ども

基本方針

- ・子どもの言動に意味のある事を知り、受け止め、共感する保育をします。
- ・健康、安全な環境の中で、子どもの豊かな感性や健やかな心と体が育つように、愛情と誠意を持って保育をします。
- ・一人一人の成長の芽を大切に、遊ぶ楽しさや友達と一緒にいる喜びなどを感じられ
る保育を大切にします。
- ・子どもと保護者の置かれた状況や意向を受け止めながら、保護者と手を取り合い
子育ての喜びや楽しさを共感しあえる保育を目指します。

2019年 園内目標

《子ども主体・遊び中心の保育の構築》

「自己肯定感を育む保育」

「遊びを中心に基礎力を育む保育」

- ・子ども思いを受け止めること
- ・子どもの思いを認めること
- ・子どもの思いに寄り添うこと

乳児・・・信頼感を育む

幼児・・・自己肯定感を高める

職員研修

- ・法人としての理念を明確にし、人材育成の方針及び求められる職員像を明らかにします。それらを達成する為に研修計画を作成し、計画に基づいて研修に参加し資質向上並びに保育技術の向上につなげます。
- ・法人内で共通した理解の基に保育の質の向上を図り、今後のスムーズな職員異動を行うためにも法人内での人材育成を充実していきます。
- ・年間を通して研修、経歴年数等に応じた研修の確立をめざす等職員育成に努めます。
- ・職員の資質や意識の向上のために、園内研修や外部研修等の充実を図ります。
- ・職員間の連携を図るとともに、相談システムの確立や研修など行う中で、職員のメンタルヘルスケアについて取り組みます。心身ともに健康で児童対応にあたることができる労働環境作り（休暇の取得・休憩室等の充実、休憩時間・事務時間の取得など）に努める。

災害対策

避難訓練

様々な災害・状況を想定した訓練を行う。

- ① 月に1度の避難訓練及び消火訓練を実施します。
- ② 引き渡し訓練を、近隣の小学校と日程を合わせ年1回行います。
- ③ 災害用備品の充実を図り、引き渡し訓練時災害を想定し防災食を提供する。
- ④ 災害時、及び緊急時を想定した「メール配信システム」を導入しています
月2回のお試しメールを行い確認の徹底を図ります。

非常持ち出し点検、職員緊急対応体制、保護者連絡、関係各所等との連絡方法等
その他対応方法を確立する。

一時保育事業

地域のニーズが大きく、ほぼ毎日定員10名の利用者がいます。
また、年齢の小さなお子さんの利用が多く、1歳を過ぎたらすぐ登録される方もいるほどです。今後も、より安全面を考慮していきたいと思えます。

実習生受け入れ

- ・今後の人材（職員）確保・人材育成対策の観点からも、養成校と連携しながら丁寧且つ適切な実習指導を行います。
- ・実習生の指導を通じ、保育士も自らの保育について改めて見つめ直していく事に努めます。
- ・長期的及び短期的な人的育成を見据えたものとしします。

2019年度 社会福祉法人 真澄児童福祉会 事業計画案をを提出します。
役員各位によるご審議とご承認を頂いた上で、事業計画にそって取り組んでいきたいと思えます。

2019年3月
社会福祉法人 真澄児童福祉会
富士見保育園
理事長 山下 隆